



つくろう！ マイナンバーカード

「マイナンバーカード」を持つことで、令和5年4月以降、コンビニなどで住民票の写しや印鑑登録証明書などの公的な証明書が取得できる見込みです。

今なら最大20,000円分のマイナポイントがもらえます。この機会に申請しませんか。

■こんなに便利！マイナンバーカード

《マイナンバーカードとは…》

申請によって取得できる、電子証明用のICチップが入った顔写真付きのプラスチック製のカードです。マイナンバー(個人番号)のほか、氏名、住所、生年月日が記載されています。

①本人確認書類として使える

本人確認の際、公的な顔写真付き身分証明書になります。

②健康保険証として使える

一部の医療機関や薬局で、マイナンバーカードが健康保険証として使えます(事前の申し込みが必要)。

■申請してみよう！

マイナンバーカード交付申請書を持っている人は▷郵便▷スマートフォン▷パソコン▷証明写真機の一の4通りで申請が可能です。

交付申請書を紛失した場合、申請書に記載の氏名・住所などが現在と異なる場合は申請書を再発行します。本人確認書類を持参し、役場(町民福祉課)に来庁してください。

～カード申請の補助を役場窓口で行っています～
申請書の記入方法の説明や写真撮影など、申請の補助を役場で行っています。気軽に相談してください。

マイナポイント第2弾の対象となる
マイナンバーカードの交付申請期限は

12月31日です！

《マイナポイント第2弾とは…》

「新規取得」「健康保険証としての利用申し込み」「公金受取口座の登録」で最大20,000円分のマイナポイントがもらえます。ポイントの申込期限は**令和5年2月28日**です。登録したキャッシュレス決済サービス(電子マネーやクレジットカードなど)でチャージや買い物をする、マイナポイントが付与される仕組みです。

■問い合わせ先

▷カード申請関係:町民福祉課 ☎46-5562 ▷ポイント申請関係:まちづくり推進課 ☎46-5578

③コンビニで各種証明書が取得できる

早朝や夜間、土曜・日曜でも、コンビニで住民票の写しや印鑑登録証明書、戸籍謄本、課税証明書が取得できます。【令和5年4月開始予定】

④ワクチン接種証明書が取得できる

新型コロナワクチン接種証明書(電子版)をスマートフォンで表示できます。

⑤行政手続きがオンラインでできる

児童手当の申請など子育てに関する行政手続きがオンラインで可能です。確定申告の手続きもできます。

■受け取ろう！

申請から約1カ月後、交付通知はがきが申請者の自宅に届きます。申請者本人が、必要書類(本人確認書類、交付通知はがき、マイナンバー通知カード)を持参して、町民福祉課で受け取ってください。

■曜日ごとの受け取り可能時間

▷月…8:30~18:30

▷火~金…8:30~16:30



《第2、4日曜に臨時窓口を開設します》

～休日でもカードが受け取れます～

町は、マイナンバーカードの普及を進めるため、マイナンバーカードの受け取り、電子証明書の有効期間更新、マイナポイントの申請補助などができる臨時窓口を設置します。

■日程…11月13日(日)、27日(日)

12月11日(日)、25日(日)

■時間…8:30~12:00

■場所…町民福祉課窓口(役場1階)

2度目の県大会優勝へチーム一丸

平泉小の児童が15人所属する「平泉GOLDEN KID'S」(男子)



全国大会出場を目指し練習に汗を流す「平泉GOLDEN KID'S」(男子)メンバー=10月12日、平泉小

平泉小学校体育館を拠点に活動するミニバス少「平泉GOLDEN KID'S」(佐藤彩香団長、男子16人・女子10人)の男子は、8月に奥州市で開かれた東北電力サマーチャレンジ2022県ミニバス交流大会(県バスケットボール協会主催)で、初優勝を果たしました。メンバーは大会後、全国大会出場枠を得られる12月の県ミニバス交歓大会優勝を目標に、攻撃力とチームワークの強化を図っています。

交流大会(男子)には、地区予選上位の県内32チームが出場。決勝は予選でも優勝を争った一関に52-38で勝利しました。佐藤琥士(6年)は「県大会優勝はうれしい。決勝の序盤はシュートが決まらず流れが悪かったが、声を出し合うことで関係がうまくできた」と振り返り「12月の県大会で優勝して全国に出場するのが目標。練習は大変だが、仲間とともに頑張るチームを目指す」と語ります。

佐藤大輔監督は「選手たちの声が出るようになり、チームワークが良くなってきている。選手それぞれが攻撃と守備をこなし、互いを補い合えるチームを目指す」と語ります。

飲酒運転を根絶へ

町交通安全母の会連合会が署名簿を町長に

町交通安全母の会連合会(小野寺祐子会長)は10月25日、高齢者を交通事故から守り、飲酒運転の根絶を誓う町民4305人分の署名簿を青木町長に提出しました。

飲酒運転などの根絶に加え、高齢者が関わる事故が多い傾向を踏まえ、その防止を図ろうと町民に署名を呼び掛けたものです。

同日は小野寺会長(14

区)と内藤まき子副会長(1区)、佐藤とわ子監事(19区)が町役場を訪れ、町交通安全対策協議会長を務める青木町長に署名簿を手渡しました。

青木町長は「署名簿を重要に受け止めている。町の交通安全を守りたい」と話し、小野寺会長は「署名することによって一人ひとりの意識付けになる」と意義を語ります。



署名簿を青木町長に手渡す小野寺祐子会長(中央)

ライト早め点灯を

町交対協の啓発活動



ドライバーに早め点灯を促した啓発活動

町交通安全対策協議会(会長・青木町長)は10月17日、啓発活動「ライト早め点灯運動」を国道4号平泉バイパスで展開し、ドライバーに薄暮時の早め点灯を呼び掛けました。

一関地区交通安全協会の町内の分会、町交通安全母の会連合会、町交通指導隊、一関警察署など

から約40人が参加。道路脇に立ち、早め点灯や安全運転を促すのぼり旗を掲げました。

同協会長島分会長の千葉秋雄さん(15区)は「交通ルールを守ることを自覚し運転してほしい。歩行者も横断時は左右を確認することが大切だ」と話しました。

交通事故のない平泉に

町内で活動展開